

地域を守る「水防活動」



台風や大雨、それらによる水害の被害を最小限に抑えるためには、自分自身や自分の家族を守る

ための取組や、地域コミュニティなどによる地域を守る取組も重要です。

行政の取組である「公助」、個人の取組みである「自助」、そして地域コミュニティなどの取組みである「共助」の連携が、水害対策には大切になります。

自分たちでできること

「ハザードマップ」の確認！

自治体が提供する「水害ハザードマップ」を見ることで、自宅や自宅周辺にどの程度の浸水の危険があるかを知ることができます。その情報を踏まえてどのような備えが必要かを考えておくことが大切です。

ここ数年、毎年のように各地で局地的大雨や集中豪雨が観測され、水害・土砂災害等により、多数の人的被害や住家被害が発生しています。周辺の道路や駐車場など、水没しになって通れないこともあります。自宅周辺にどのような水害のリスクがあるかを知ることが必要です。

住まいを確認！



強風の時や大雨の時は、窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、風で飛ばされそうなものは固定したり、家の中へ入れましょう。また、急激な水位の上昇によって、下水管が満水状態となり逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから、水が吹き出ることがあります。そういった自然災害だけでなく、排水管の老朽化や、廃油や料理カスなどがヘッドとなって排水管に詰まり、下水道に流れず、床が水浸しになるケース



ためになる話

身近な防災

地震、台風、洪水…など、自然がもたらす災害に備えましょう！

のように身近で起こる災害もあります。自分たちで確認して災害に備えましょう。



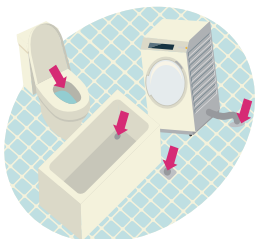
逆流は「水のう」で止める！



・水のうは、大きめ(45ℓ)のゴミ袋を二重、三重に重ね、半分(20ℓ)程度の水を入れ、口をきつく縛って作ります。

・トイレの場合は「水のう」を便器の中に入れます。

・外からの、水の侵入を防ぐときにも、玄関前に「水のう」を「土のう」代わりに使用することで軽減できます。重くしないと役目を果たせない所以要注意！



予測不能の停電に備える



集中豪雨や台風、地震、落雷などの自然災害で起きやすい停電は、他の要因によっても起こることもあります。変電所のトラブルや、カラスが電柱に金属ハンガーなどで巣作りをし停電が起きたこともありました。原因がなんであれ、停電の復旧には時間がかかります。その間、電気の無い生活を過ごさな

ればなりません。また、停電によって断水が起きることもあります。断水の多くは、水道管の老朽化によるものですが、電気が止まることで断水になる可能性もあります。

冷蔵庫の食材は大丈夫？

停電になると、オール電化の家では、電化製品のほとんどは使えなくなります。IHコンロも使えなくなります。そこで、電気がなくても使えるカセットコンロを用意しておく安心です。それ以外にも、日ごろから、野菜は茹でて冷凍し、自然解凍して食べられるように、缶詰めや納豆や佃煮など調理しなくても食べられる食材を切らさないようにすることも大事です。



冷蔵庫内は、開け閉めをしなければ2～3時間くらいは大丈夫。また、冷凍したペットボトル、ラップにくるんだ冷凍ご飯を冷蔵庫の一番上におくことで、冷気が下へ回り庫内を冷やすのに役立ちます。

災害のための非常食を備蓄しておくのもいいですが、日常の食材を災害時に活用する方法を考えておきましょう。



停電になると、電気を使用する家電は使えません。そんな時、カセットコンロも便利ですが、電気不要の石油ストーブがあれば、お湯を沸かしたり、お料理にも利用できます。

情報収集はどうしよう？

災害時の情報はスマートフォンで収集することが多いと思いますが、停電が長引けばバッテリー切れもあります。そんな時のために、ソーラーパネル付きのモバイルバッテリーを用意しておきましょう。ACコンセントや車のシガーコンセントでも充電可能です。スマホは、ライトを点灯すると照明がわりにもなります。



災害でも、ローカルなものはテレビやラジオでは流れないことがあります。身近な情報は、友達・家族とSNSでシェアしましょう。場所によっては行政防災無線が情報を発信しています。